

1992 年 秋 季 年 会

# 講 演 予 稿 集

於 名 古 屋 大 学

1992 年 10 月 13 日 (火) ~ 15 日 (木)

日 本 天 文 学 会

# 日本天文学会 1992年 秋季年会

## プログラム

月 日 1992年10月13日(火)~15日(木)

(第1日目は午前10時30分より;第2日目以降は午前9時より)

場 所 名古屋大学豊田講堂、同シンポジオン 〒464-01 名古屋市千種区不老町

臨時電話 052-782-9101

[会場案内図 プログラム最終ページ]

9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 時

月 日	会場	分 野			分 野	分 野			講演番号				
10月13日 (火)	A	星間現象		学 内 地 留 学 奨 学 金 選 考 委	星間現象	星間現象			A1-38				
	B	宇宙論			宇宙論	宇宙	位置	力学		B1-33			
	C	恒 星			恒 星	恒 星				C1-42			
10月14日 (水)	A	星間現象	観測機器・ 情報処理	評 議 員 会	観測機器・情報処理		ポ ス タ ー ・ シ ン ポ ジ オ ン	天 文 学 長 期 計 画 特 別 セ ッ シ ヨ ン	懇 親 会	A39-76			
	B	太陽系	太 陽		太 陽								B34-71
	C	恒 星			恒 星	我々の 銀河系				銀河・ 銀河団			C43-81
10月15日 (木)	A	観測機器・情報処理		理 事 会	観測機器・ 情報処理	観測機器・情報処理			A77-121				
	B	太 陽			太 陽					B72-108			
	C	銀河・銀河団			銀河・銀河団		銀河・銀河団			C82-126			

A会場：豊田講堂大講堂 B会場：豊田講堂第一会議室 C会場：名大会館シンポジオン

参加費 一般2,000円, 学生1,000円 予稿集配布価格 1,500円

- 会期は3日間で、3会場で行います。第1日目(10月13日(火))は午前10時30分から、第2・3日目は午前9時からとなります。昼食時間以外の休憩は、各日も午後1回づつとることにしました。
- 講演割当時間は7分です。
- ポスター発表への参加数は35で、該当する方へは案内書を送りました。なお第2日目午後4時からこのためのディスプレイ用時間(休憩時間帯・30分)を設けました。
- Post-deadline papersは10月12日(月)正午まで受け付けますが、ポスター発表とさせていただきます。
- スライドは透視した時に正しい上下関係になるようにして、その手前側上方に講演番号と氏名、映写順の番号を書き、下縁に5mm位の赤線をつけて下さい。ビラは用いず、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターをご利用下さい。
- ビデオプロジェクター(VHS)をB・C会場に用意しました。
- 懇親会は第2日目、午後6時30分から大学構内シンポジオンで行います。
- 公開講演会を年会初日の13日(火)午後6時から名古屋市科学館・サイエンスホールで開催します。  
 題目：星誕生の謎を探る  
 一電波で見る分子雲と原始星一講師 福井康雄(名古屋大学理学部助教授)  
 一光と赤外線で見える星の生成と進化一講師 佐藤修二(国立天文台助教授)
- 特別セッションとして「天文学長期計画」に関する討論会を、年会第2日(14日)午後4時半よりA会場にて開催します。日本学術会議天文学研究連絡委員会では21世紀を展望する日本の天文学長期計画の立案をめざしており、各分野で議論が進んでいますが、その一環として中間的報告と討論を行なうものです。多くの方々の参加をお願いします。  
 [連絡先：国立天文台・海部宣男]

## 会場 A (豊田講堂大講堂)

### 第1日 10月13日(火) 午前10時30分より 会場 A (星間現象)

- A 1 大マゼラン雲の [C II] 158  $\mu\text{m}$  輝線サーベイ観測：望月賢治<sup>1,2</sup>, 中川貴雄<sup>1</sup>, 土井靖生<sup>1,2</sup>, 山下由香利<sup>1,2</sup>, 奥田治之<sup>1</sup>, 油井正生<sup>1,2</sup>, 芝井 広<sup>1</sup>, 西村徹郎<sup>3</sup>, F. J. Low<sup>3</sup> (<sup>1</sup>宇宙研, <sup>2</sup>東大理, <sup>3</sup>アリゾナ大)
- A 2 遠赤外 [C II] 線広域サーベイ—オーストラリア実験の概要—：奥田治之<sup>1</sup>, 中川貴雄<sup>1</sup>, 山下由香利<sup>1,2</sup>, 土井靖生<sup>1,2</sup>, 望月賢治<sup>1,2</sup>, 油井正生<sup>1,2</sup>, 矢島信之<sup>1</sup>, 芝井 広<sup>1</sup>, 成田正直<sup>1</sup>, 西村徹郎<sup>3</sup>, F. J. Low<sup>3</sup> (<sup>1</sup>宇宙研, <sup>2</sup>東大理, <sup>3</sup>アリゾナ大)
- A 3 IRAS 04365+2535 に付随するガス円盤の干渉計観測：大橋永芳<sup>1</sup>, 田村元秀<sup>2</sup>, 林 正彦<sup>3</sup>, 平野尚美<sup>4</sup>, 川辺良平<sup>1</sup>, 石黒正人<sup>1</sup>, Moriarty-Schieven<sup>5</sup> (<sup>1</sup>国立天文台野辺山, <sup>2</sup>JPL, <sup>3</sup>東大理, <sup>4</sup>一橋大, <sup>5</sup>DRAO)
- A 4 P 36 に変更
- A 5 非球状星間塵の熱輻射による偏光：尾中 敬 (東大理)
- A 6 SgrB2 領域の大規模な分子雲の衝突 I. <sup>13</sup>CO 広域マップ：長谷川哲夫 (東大理センター), 佐藤文男 (東京学芸大), John. B. Whiteoak (Australia Telescope National Facility), 宮脇亮介 (福岡教育大)
- A 7 SgrB2 領域の大規模な分子雲の衝突 II. HNC/C<sup>18</sup>O 強度比の分布：佐藤文男 (東京学芸大), 長谷川哲夫 (東大理センター), John B. Whiteoak (Australia Telescope National Facility), 清水政義 (東京都立桜町高)
- A 8 SgrB2 領域の大規模な分子雲の衝突 III. 野辺山ミリ波アレイによる CS (J=1-0) 高分解能マップ：宮脇亮介 (福岡教育大), 長谷川哲夫 (東大理センター), 佐藤文男 (東京学芸大), John. B. Whiteoak (Australia Telescope National Facility), 小林秀行 (宇宙研)
- A 9 野辺山ミリ波干渉計による protobinary system IRAS 16293-2422 の観測：鈴木美都<sup>1</sup>, 森田耕一郎<sup>2</sup>, 川辺良平<sup>2</sup>, 石黒正人<sup>2</sup> (<sup>1</sup>総研大, <sup>2</sup>国立天文台野辺山)
- A 10 NOBA による銀河中心領域の観測：松尾 宏 (通総研), 久野成夫 (国立天文台野辺山), 奥村健市 (東大理), 水本好彦 (神戸大理)

### 第1日 10月13日(火) 午後1時より 会場 A

- A 11 45 m 鏡によるオリオン座分子雲サーベイ (VII)：梅本智文<sup>1</sup>, 立松健一<sup>1</sup>, 平野尚美<sup>2</sup>, 亀谷 收<sup>3</sup>, 長谷川哲夫<sup>4</sup>, 林 正彦<sup>4</sup>, 岩田隆浩<sup>5</sup>, 海部宣男<sup>6</sup>, 三上入己<sup>7</sup>, 村田泰宏<sup>8</sup>, 仲野 誠<sup>9</sup>, 中野武宣<sup>1</sup>, 大橋永芳<sup>1,7</sup>, 砂田和良<sup>4</sup>, 高羽 浩<sup>5</sup>, 山本 智<sup>7</sup> (<sup>1</sup>国立天文台野辺山, <sup>2</sup>一橋大, <sup>3</sup>国立天文台水沢, <sup>4</sup>東大理, <sup>5</sup>通信総研, <sup>6</sup>国立天文台, <sup>7</sup>名大理, <sup>8</sup>宇宙研, <sup>9</sup>大分大)
- A 12 オリオン KL のコンパクト・リッジにおける含酸素有機分子の生成：大石雅寿, 廬 徳圭 (国立天文台野辺山), Y. C. Minh (韓国 DRAO)
- A 13 L 134 N 分子雲中に見られる分裂構造 (I)：砂田和良 (東大理), 北村良実 (鹿大医短), 長谷川哲夫 (東大理センター)
- A 14 星間アンモニア分子の振動励起状態における反転遷移の観測：川口建太郎, 大石雅寿, 石川晋一 (国立天文台野辺山), 笠井康子 (東工大理), 海部宣男 (国立天文台)
- A 15 フィラメント状分子雲における連鎖的分裂過程：花輪知幸, 山本 智 (名大理), 平原靖大 (東大教養)
- A 16  $\rho\text{Oph}$  分子雲の高密度分子ガスと原始星：坪井 隆, 水野 亮, 小川英夫, 福井康雄 (名大理)
- A 17 L 1641 分子雲の分子雲コア：長濱智生, 水野 亮, 小川英夫, 福井康雄 (名大理)
- A 18 <sup>13</sup>CO and extended IRAS emission of Molecular Clouds : J. P. Bernard<sup>1,3</sup>, K. Dobashi<sup>2</sup>, F. Boulanger<sup>3</sup>, A. Mizuno<sup>1</sup>, Y. Fukui<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Nagoya Univ., <sup>2</sup>Osaka Prefecture Univ., <sup>3</sup>Orsay Univ. France.)
- A 19 フィラメント状分子雲の分裂：ガス円盤の形成：中村文隆, 花輪知幸 (名大理), 中野武宣 (国立天文台野辺山)
- A 20 おうし座領域の高密度ガスと星形成：水野 亮, 大西利和, 長濱智生, 小川英夫, 福井康雄 (名大理)
- A 21 高銀緯星間雲の星間塵放射スペクトル：田中昌宏, 松原英雄, 松浦周二, 川田光伸, 松本敏雄 (名大理), P. Mouspopf, J. Bock, V. Christov, A. Lange (カリフォルニア大パークレー)
- A 22 “220 nm 吸収” を示す星間塵の構造の解明：坂田 朗, 和田節子, 成澤孝敏, 小野 洋 (電通大)
- A 23 18  $\mu\text{m}$  ピークを示す MgO smoke と銀河中心方向の塵との対比：和田節子, 坂田 朗, 小野 洋, 成澤孝敏 (電通大)
- A 24 B1 の CO 分子流：平野尚美<sup>1</sup>, 亀谷 收<sup>2</sup>, 梅本智文<sup>3</sup>, 山本 智<sup>4</sup>, 三上入己<sup>4</sup>, 斎藤修二<sup>4,5</sup> (<sup>1</sup>一橋大, <sup>2</sup>国立天文台水沢, <sup>3</sup>国立天文台野辺山, <sup>4</sup>名大理, <sup>5</sup>分子研)

## 休 憩

- A 25 暗黒星雲の分子スペクトル大規模探査：海部宣男，大石雅寿，川口建太郎，石川晋一，宮澤敬輔，宮地竹史，奥村千秋（国立天文台），齋藤修二（分子研），山本 智（名大理），平原靖大（東大教養）
- A 26 白鳥座領域の $^{13}\text{CO}$  広域観測：土橋一仁（大阪府立大），米倉覚則，大西利和，坪井 隆，長濱智生，J. P. Bernard，水野 亮，小川英夫，福井康雄（名大理）
- A 27 名大4m鏡によるカシオペア領域の $^{13}\text{CO}$  広域観測：米倉覚則，水野 亮，小川英夫，福井康雄（名大理），尾林彩乃，佐藤文男（東京学芸大），土橋一仁（大阪府立大）
- A 28 新しいく銀河系 $^{13}\text{CO}$  (1-0) サーベイ計画：福井康雄，小川英夫，水野 亮，J. P. Bernard，土橋一仁，長濱智生，米倉覚則，大西利和，坪井 隆（名大理）
- A 29 原始星降着円盤における磁場の振舞。II：中野武宜（国立天文台野辺山）
- A 30 原始惑星系円盤の熱構造：川添英子（茨城大理・京大理），嶺重 慎（京大理）
- A 31 原始惑星系円盤の形成と初期進化および重力安定性：中本泰史，中川義次（東大理）
- A 32 原始惑星系円盤の重力不安定性（線型解析）：菊地信弘（東大理），観山正見（国立天文台）
- A 33 原始惑星系円盤の重力安定性—非線型解析：観山正見（国立天文台），菊地信弘，犬塚修一郎（東大理），小林謙一（総研大）
- A 34 Tタウリ型星の放射スペクトル進化：三宅浩太郎，中川義次（東大理）
- A 35 X-ray emission from age-dated post T-Tauri stars：H. Zinnecker (Inst. Astron. Astrophys. Univ. Wuerzburg, Germany)
- A 36 「ぎんが」によるSN 1006の観測：尾崎正伸，山内茂雄，上野史郎，鶴 剛，小山勝二（京大理）
- A 37 惑星状星雲 Abell 30 の高分散分光観測：矢動丸 泰，内藤宏亮，田村眞一（東北大理）
- A 38 惑星状星雲，NGC 1501 の撮像観測：田村眞一<sup>1</sup>，ハキム L. マラサン<sup>2</sup>，山崎篤磨<sup>3</sup>，橋本 修<sup>4</sup>，神戸栄治<sup>3</sup>，竹内峯<sup>1</sup>（<sup>1</sup>東北大理，<sup>2</sup>東大理，<sup>3</sup>防衛大，<sup>4</sup>成蹊大工）

## 第2日 10月14日（水） 午前9時より 会場A

- A 39 H-R Diagram of Protostars：Thomas Djamaluddin，斎藤 衛（京大理）
- A 40 新しいハービッグ・ハロー天体 HH 137/138 の分光および撮像観測：小倉勝男（国学院大）
- A 41 磁気圏をもつ中心天体へのディスクアクリション：広瀬重信，内田 豊（東大理），柴田一成（国立天文台），松元亮治（千葉大），佐藤哲也（核融合研）
- A 42 減速衝撃波不安定の非線型成長II：西 亮一（国立天文台野辺山），山田良透（京大理）
- A 43 円柱状星間ガス雲の分裂過程（非線形計算2）：犬塚修一郎（東大理），観山正見（国立天文台）
- A 44 回転しているフィラメント状分子雲のMHD不安定性：松本倫明，中村文隆，花輪知幸（名大理）
- A 45 回転している星間分子雲の自己重力収縮の動的進化への磁場の影響（II）：太田完爾，羽部朝男（北大理）
- A 46 分子雲同志の衝突II…GMC-SMC collision：木村俊哉，土佐 誠（東北大理）
- A 47 減速等温ガス層の自己重力不安定性（高マッハ数の場合）：吉田龍生（茨城大理），羽部朝男（北大理）

## （その他）

- A 48 PASJ に投稿すべきか？ II. レターに関する統計：I. 速報：寿岳 潤（東海大文明研）

## （観測機器・情報処理）

- A 49 ASTRO-D 衛星の現状：田中靖郎，井上 一，他 ASTRO-D 衛星班（宇宙研）
- A 50 撮像型 X 線天文衛星 ASTRO-D の位置検出能力：藤本龍一，紀伊恒男，大谷知行，藺部 敬（宇宙研），吉田篤正（理研），他 ASTRO-D STT チーム
- A 51 ASTRO-D 搭載用 GIS の較正実験：中川健一郎，牧島一夫，田代 信，香村芳樹，池辺 靖，浅沼達彦，石崎欣尚，深沢泰司，金田英宏（東大理），大橋隆哉（都立大理），井上 一，石田 学，上田佳宏，村上敏夫，田中靖郎，松葉栄治，山本泰志（宇宙研），三原建弘，竹島敏明（理研），鶴 剛（京大理），海老沢研（GSFC）
- A 52 Astro-D 搭載用 GIS の軟 X 線特性：上田佳宏，井上 一，石田 学，小谷太郎（宇宙研），大橋隆哉（都立大理），牧島一夫，田代 信，香村芳樹，池辺 靖，石崎欣尚，深沢泰司，中川健一郎（東大理），三原建弘（理研），鶴 剛（京大），上條俊介（富士通），海老沢研（GSFC）
- A 53 ASTRO-D 搭載 X 線望遠鏡の較正試験（II）：鈴木久則，津坂佳幸，山岸 孝，国枝秀世，田原 譲，山下廣順（名大理），小賀坂康志，内堀康弘，伊藤真之（宇宙研），粟木久光（GSFC/NASA），常深 博，林田 清，野本 進，和田幹生，宮田恵美（阪大理），他 XRT チーム
- A 54 ASTRO-D 搭載用 X 線 CCD カメラの性能評価：小谷太郎，松葉栄治，青木貴史，堂谷忠靖，満田和久（宇宙研），宮田恵美，常深 博（阪大），G. R. Ricker (MIT)，村田顕二（大阪府大），他 ASTRO-D SIS チーム

- A 55 宇宙観測用 X 線光学素子の開発 (I) : 山崎 孝, 国枝秀世, 田原 譲 (名大理), 山下広順, 鈴木貴志, G. S. Lodha (宇宙研), 石黒英治 (大阪市大工), 廿日出 勇 (宮崎大工), 大谷正之 (ニコン)
- A 56 旋盤切削加工法による次世代 X 線望遠鏡の開発 : 先間康博, 田原 譲, 国枝秀世, 山下広順 (名大理)
- A 57 CCD による X 線偏光検出と X 線偏光計への応用 : 常深 博, 林田 清, 田村啓輔, 野本 進, 和田幹生, 平野章, 宮田恵美, 村上裕是 (阪大理)
- A 58 モザイク CCD データのつなぎ合わせ : 安田直樹, 柏川伸成, 土居 守 (東大理)

**第2日 10月14日(水) 午後1時より 会場 A**

- A 59 ロケット搭載用 0.3 K 冷凍器の開発 : 宮沢敬輔, 稲谷順司, 坪井昌人, 久野成夫 (国立天文台野辺山), 奥村健市 (東大天文), 松尾 宏 (通総研), 春日 隆 (法政大工), 村上 浩 (宇宙研)
- A 60 技術試験衛星 (ETS-) VI を用いたスペース VLBI 計画-2~擬似衛星局による実時間フリンジモニタ実験~ : 岩田隆浩, 今江理人, 木内 等, 栗原則幸, 関戸 衛, 浜 真一 (通総研鹿島)
- A 61 Lucy アルゴリズムによる従来型反復ブラインドデコンボリューション法の改良 : 圓谷文明 (総研大), 三浦則明, 馬場直志 (北大工), 磯部琇三, 野口本和 (国立天文台)
- A 62 位相変化を与えたスペckルデータからの天体像再生 : 富田博之, 馬場直志, 三浦則明 (北大工)
- A 63 Diffraction Limited Imaging in Optical Ground-Based Astronomy with CCD Cameras : Craig D. Mackay (University of Cambridge)
- A 64 補償光学のための可変形鏡の試作 : 高遠徳尚 (東大理), 山口一郎 (理研), 家 正則 (国立天文台)
- A 65 Stressed Ge : Ga Linear Array 検出器の開発 : 川俣洋史 (東理大理), 芝井 広 (宇宙研), 広本宣久 (通総研), 奥村健市, 望月賢治 (東大理), 中川貴雄, 奥田治之 (宇宙研), 川端 潔 (東理大理)
- A 66 通信総合研究所赤外カメラの測光システム : 安田大輔, 川端 潔 (東理大理), 廣本宣久, 青木哲郎, 高見英樹 (通総研)
- A 67 赤外線カメラ (PICNIC) の開発 II. 光学系 : 峰崎岳夫 (東大理), 小林行泰, 佐藤修二, 三浦 均, 和瀬田幸一 (国立天文台), 房 耕 (東大理), 笠羽康正 (京大理)
- A 68 赤外線カメラ (PICNIC) の開発 III. 読みだし装置 : 和瀬田幸一, 小林行泰, 佐藤修二, 三浦 均 (国立天文台), 房 耕, 峰崎岳夫 (東大理)
- A 69 Si : P 中間赤外線検出器の開発 III : 度會英教, 松本敏雄 (名大理), 村上 浩 (宇宙研)
- A 70 軌道赤外線望遠鏡 IRTS の開発 : 村上 浩, IRTS ワーキンググループ
- A 71 IRTS 搭載遠赤外線ラインマッパーの性能・その 2 : 油井正生 (東大理), 芝井 広, 奥田治之, 中川貴雄 (宇宙研), 松原英雄 (名大理), 廣本宣久 (通総研)
- A 72 岡山多目的近赤外カメラ (OASIS) 制御系の概要 : 西原英治 (総研大・国立天文台), 山下卓也 (国立天文台), 片坐宏一 (東大理センター), 奥村真一郎 (東大理)
- A 73 近赤外夜光連続光成分の観測と OHS : 舞原俊憲, 岩室史英 (京大理), Alan Tokunaga, Len Cowie (IfA, UH)
- A 74 木曾観測所における近赤外線撮像観測 : 柳澤顕史 (東京学芸大), 市川 隆 (東大理木曾), 上野宗孝 (東大教養), 伊藤信成 (東大理), 樽沢賢一 (東大理木曾)
- A 75 赤外中分散分光器 (IMIDAS) : 富田和学, 杉山光児, 舞原俊憲, 長田哲也, 小林尚人, 岩室史英 (京大理)
- A 76 すばる望遠鏡ドーム構造の基本設計 : 小平桂一 (国立天文台), すばるプロジェクトチーム

——ポスター・ディスカッション——

**第3日 10月15日(木) 午前9時より 会場 A**

- A 77 ドーム内空調における室内温度分布の検討 : 加藤栄二郎, 三神 泉, 山内秀孝, 山田和人 (三菱電機), 海部宜男, 安藤裕康, 野口 猛 (国立天文台)
- A 78 すばる望遠鏡主鏡能動支持機構用アクチュエータの試作 : 斉藤秀朗, 浅里幸起, 伊藤 昇 (三菱電機), 家 正則, 田中 済 (国立天文台)
- A 79 すばる望遠鏡基礎の地盤改良 : 唐牛 宏, 宮下暁彦, 野口 猛, すばるプロジェクトチーム (国立天文台)
- A 80 すばる望遠鏡の周辺光学系 : 沖田喜一, 家 正則, すばるプロジェクトチーム (国立天文台)
- A 81 赤外線シミュレータ : 田中培生 (東大理センター), 沖田喜一, 田中 済, すばるプロジェクトチーム (国立天文台)
- A 82 THIS—CCD 制御システムの開発状況— : 河合 淳 (富士通), 木藤明彦 (富士通長野システムエンジニアリング), 青木 勉, 市川 隆 (東大理木曾)
- A 83 NRO ポロメータアレイによる連続波観測 : 久野成夫 (国立天文台野辺山, 東北大), 松尾 宏 (通総研), 水本好彦 (神戸大), 奥村健市 (国立天文台野辺山, 東大理)

- A 84 S-520-17号機サブミリ波望遠鏡の光学系。2：奥村健市（東大理），松尾 宏（通総研），春日 隆（法政大工），稲谷順司，坪井昌人，宮澤敬輔，久野成夫（国立天文台野辺山），村上 浩（宇宙研）
- A 85 SIS ミクサにおける「サブステップ」構造：小川英夫，坪井 隆，水野 亮，福井康雄（名大理），鈴木秀雄，鉾 宏真（富士通）
- A 86 同調回路集積型 500 GHz 帯 SIS ミクサ：野口 卓，稲谷順司（国立天文台野辺山），砂田和良（東大理）
- A 87 A 100 GHz Image-Rejection SIS Mixer with Fixed Tuners：S. C. Shi, J. Inatani, K. Sunada, T. Noguchi, and G. McCulloch（国立天文台野辺山）
- A 88 100 GHz 帯 25 マルチビーム受信機システムの技術展望：稲谷順司，野口 卓，浮田信治，川口則幸，坪井昌人，中井直正，大石雅寿，坂本彰弘（国立天文台野辺山），史 生才（紫金山天文台），砂田和良（東大理）
- A 89 ミリ波用低損失クロスガイドカブラの製作：鈴木和司，坪井 隆，小川英夫（名大理）
- A 90 短ミリ波帯ワイヤグリッド素子の製作：河合利秀，小川英夫（名大理）
- A 91 MUSES-B の高感度受信機系：春日 隆（法政大工），平林 久（宇宙研），井上 允（国立天文台），中川栄治，富家文穂，細田育生（日本電気），阿部安宏（日本通信機）
- A 92 臼田 64 m アンテナ 1.6/5/22 GHz 同時受信システム：藤沢健太（東大理），平林 久，小林秀行（宇宙研），西堀俊幸（上智大理工），土谷牧夫，島脇 豊（三菱電機）
- A 93 デジタル化した光子の位相制御：大師堂経明，遊馬邦之，中島潤一，乙部英一郎，渡辺直企，荒蒔義隆，小林寛美，斉藤友博，田中尚樹，星川知之（早大教育・理工，草加高），西掘一彦（ソニー）
- A 94 4メートル短ミリ波望遠鏡新解析システムの開発（2）：大西利和，長濱智生，J. P. Bernard，水野 亮，小川英夫，福井康雄（名大理）
- A 95 2次元電波パトロールカメラの像合成：遊馬邦之（草加高校），大師堂経明，中島潤一，乙部英一郎，渡辺直企，荒蒔義隆，小原啓義，小松進一（早大理工・教育）
- A 96 日本列島みんなで電波望遠鏡の夢：森本雅樹（国立天文台野辺山）

### 第3日 10月15日（木）午後1時より 会場 A

- A 97 富士山頂における気象条件とサブミリ波観測：山本 智（名大理），斎藤修二（分子研），海部宣男（国立天文台），大石雅寿，川口建太郎（国立天文台野辺山）
- A 98 富士山頂サブミリ波望遠鏡計画：斎藤修二（分子研），山本 智（名大理），海部宣男（国立天文台），稲谷順司，宮沢敬輔，大石雅寿（国立天文台野辺山）
- A 99 完全自動観測が可能な電波ヘリオグラフ制御系：川島 進，西尾正則，中島 弘，花岡庸一郎，武士俣 健，柴崎清登，鷹野敏明（国立天文台野辺山），能美 仁，本田耕三（日本電気）
- A 100 電波ヘリオグラフ受信機系の安定性：武士俣 健，西尾正則，中島 弘，川島 進，鳥居近吉，関口英昭，篠原徳之，花岡庸一郎，鷹野敏明，柴崎清登，入交芳久，塩見靖彦，沢 正樹，鯨目信三（国立天文台野辺山），高林利夫，西川勝彦，二川憲夫（日本電気）
- A 101 電波ヘリオグラフによる太陽画像の定量的評価：越石英樹（東大理），電波ヘリオグラフチーム（国立天文台野辺山）
- A 102 鹿児島ミリ波 VLBI 局開設計画の現状：古屋 玲<sup>1</sup>，面高俊宏<sup>1</sup>，川口則幸<sup>2</sup>，森本雅樹<sup>2</sup>，北村良実<sup>1</sup>，田中 稔<sup>1</sup>，北川隆宏<sup>1</sup>，井上 允<sup>3</sup>，宮地竹史<sup>2</sup>，御子柴 廣<sup>2</sup>，宮沢敬輔<sup>2</sup>，笹尾哲夫<sup>3</sup>，久慈清助<sup>3</sup>，河野宣之<sup>3</sup>，田村良明<sup>3</sup>，春日 隆<sup>4</sup>，藤下光身<sup>5</sup>，高岸邦夫<sup>6</sup>，他（鹿児島大<sup>1</sup>，国立天文台野辺山<sup>2</sup>，国立天文台水沢<sup>3</sup>，法政大工<sup>4</sup>，九州東海大<sup>5</sup>，宮崎大<sup>6</sup>）
- A 103 鹿島-臼田基線でのパルサー VLBI 実験：浜 真一，花土ゆう子，木内 等，今江理人，高橋幸雄（通総研鹿島），平林 久，藤沢健太，小林秀行（宇宙研）
- A 104 広帯域バースト VLBI 観測方式の感度改善効果：松本欣也（電通大），川口則幸（国立天文台野辺山）
- A 105 広帯域観測が可能な新しい VLBI 観測装置の開発：御子柴 廣，川口則幸（国立天文台野辺山），面高俊宏，鈴山智也，招 淳也（鹿児島大）
- A 106 VLBI 用 TSS 時系制御システム：宮地竹史，川口則幸，近田義廣（国立天文台野辺山），小林秀行（宇宙研）
- A 107 LMA は 0.1" 分解能を実現できるか：位相揺らぎの克服：森田耕一郎，神沢富雄，石黒正人（国立天文台野辺山）
- A 108 The Urumqi VLBI Station Project：馬 伶（中国馬魯木齊天文台）
- A 109 VSOP 観測の国際運用体制：井上 允，森本雅樹（国立天文台野辺山），広沢春任，平林 久（宇宙研）

### 休 憩

- A 110 MUSES-B (VSOP 衛星) 用アンテナ：三好一雄ほか<sup>1</sup>，三浦公亮ほか<sup>2</sup>，森本雅樹ほか<sup>3</sup> (VSOP チーム) (<sup>1</sup>三菱電機，<sup>2</sup>宇宙研，<sup>3</sup>国立天文台野辺山)
- A 111 VSOP におけるフリッジ検出パラメータの軌道誤差解析：中村佐武六（名大理），川口則幸（国立天文台野辺山），加藤隆二，市川 勉，西村敏充（宇宙研）

- A 112 VSOP 相関局のシステム・ソフトウェア：村田泰宏，小林秀行（宇宙研），近田義広，川口則幸（国立天文台野辺山），小山泰弘，高橋幸雄，浜 真一（通総研），VSOP グループ
- A 113 VSOP 観測の地上支援システム：川口則幸（国立天文台野辺山），山本善一，広沢春任（宇宙研）
- A 114 VSOP 相関局での異規格 VLBI 記録の混合相関：近田義広，川口則幸（国立天文台野辺山），小林秀行，村田泰宏（宇宙研）
- A 115 VSOP 観測計画準備状況一：平林 久，広沢春任，西村敏充，小林秀行，村田泰宏，三浦公亮，高野 忠，井上浩三郎，山本善一，名取通弘，小野田淳次郎，二宮敬虔，橋本樹明，大西 晃，加藤隆二，市川 勉，他（宇宙研），森本雅樹，井上 允，近田義広，川口則行（国立天文台），春日 隆（法政大工），折井 武，中川栄治，他（日本電気），三好一雄，井上登志夫，他（三菱電機），他多数社，J. Smith, R. Preston, D. Meier, D. Murphy, J. Ulvestad, J. Springet (NASA/JPL)
- A 116 レーザー干渉計に用いられる鏡材の機械的特性の測定：福嶋美津広，大橋正健，山崎利孝，藤本真克（国立天文台）
- A 117 FP 型レーザー干渉計プロトタイプ (IV)：山崎利孝，福嶋美津広，大橋正健，藤本真克（国立天文台）
- A 118 DREAM による観測データ処理：大野洋介（東大理），上野宗孝，牧野淳一郎（東大教養）
- A 119 国立天文台広域ネットワーク：小林信夫，小笠原隆亮（国立天文台）
- A 120 ステラジアン望遠鏡：戎崎俊一，上野宗孝（東大教養），渡部潤一（国立天文台），村上敏夫（宇宙研）
- A 121 水沢における大気透過率の測定 (I)：亀谷 収，岩館健三郎（国立天文台水沢），春日 隆（法政大工）

## 会場 B (豊田講堂第一会議室)

第1日 10月13日(火) 午前10時30分より 会場B

(宇宙論)

- B 1 サブミリ波ロケット観測データの波形解析：佐藤紳司，松本敏雄(名大理)，D. Alsop, A. Lange (U. C. Berkeley)
- B 2 S-520-15号機による近赤外背景放射の観測：松浦周二，松原英雄，田中昌宏，川田光伸，野田 学，松本敏雄(名大理)
- B 3 Peebles モデルの宇宙背景放射の非等方性II：千葉尚志，杉山 直，佐藤勝彦(東大理)，須藤 靖(京大基研宇治)
- B 4 発見された宇宙背景放射の大きな角度スケールでの非等方性による宇宙モデルの制限I：解析方法：郷田直輝(阪大理)，杉山 直(東大理)
- B 5 発見された宇宙背景放射の大きな角度スケールでの非等方性による宇宙モデルの制限II：構造形成モデル：杉山 直(東大理)，郷田直輝(阪大理)
- B 6 宇宙論的 Sunyaev-Zel'dovich 効果II：牧野伸義(広大理，京大基研)，須藤 靖(京大基研)
- B 7 重力散乱による宇宙背景放射の等方化：福重俊幸，牧野淳一郎，戎崎俊一，西村 治(東大教養)
- B 8 QSO の吸収線系のイオン化状態：2成分モデルII：傳田紀代美(東大理)，池内 了(国立天文台)
- B 9 On evolution of Lyman  $\alpha$  forest at low redshifts：村上 泉，池内 了(国立天文台)
- B 10 銀河による QSO の隠蔽と光度関数の変形：富田憲二(京大基研)，渡辺一也(東工大理)，田越秀行(京大理)

第1日 10月13日(火) 午後1時より 会場B

- B 11 Subclustering in the Hierarchical Model of Galaxy Formation：吉岡 諭(東京商船大)
- B 12 爆発モデルにもとづく構造形成：中村信一(東工大)，池内 了(国立天文台)，吉岡 諭(東京商船大)
- B 13 大規模構造形成の蒸発シナリオ：寺澤信雄(理研)
- B 14 外部密度場の非等方性による超銀河団の進化II：渡辺卓也(京大理)
- B 15 CDM モデルにおける銀河の角運動量の定量的解析：上田晴彦(広大理，京大基研)，杉之原立史(東大理)，須藤 靖(京大基研)
- B 16 膨張宇宙におけるボイドの膨張則と宇宙パラメーター：坂井伸之，前田恵一(早大理工)，佐藤文隆(京大理)
- B 17 ダークマターは実在するか？加富治行(無所属)
- B 18 宇宙の再加熱・再電離：佐々木 伸(都立大理)
- B 19 漸近的 de Sitter 的時空でのブラックホールの性質について：白水徹也，中尾憲一(京大理)，小玉英雄(京大教養)，前田恵一(早大理工)
- B 20 量子起源の  $1/f$  揺らぎと宇宙の密度揺らぎ：森川雅博(京大理)
- B 21 裸の特異点蒸発予想：中尾憲一，柴田 大(京大理)，中村卓史(京大基研)
- B 22 アキシオン・ドメインウォールからの重力波：山本一博，横山順一(京大基研宇治)

休 憩

- B 23 5次元重力理論と4次元状態方程式：福井尚生(獨協大教養)
- B 24 スケールに依存したトポロジーのモデル：芹生正史(京大理)
- B 25 拡大宇宙論の課題：海野和二郎(近畿大)

(位置天文学)

- B 26 Tokyo PMC 第II期観測プログラム用 CCD マイクロメータ：鈴木駿策，吉澤正則，石崎秀晴，桑原龍一郎，岩下 光(国立天文台)
- B 27 SiO メーザで位置天文できるか？：三好 真(東大理)，森本雅樹(国立天文台野辺山)

(天体力学)

- B 28 剛体の自由回転の数値積分：石崎秀晴，福島登志夫(国立天文台)
- B 29 一般不完全楕円積分の数値計算：福島登志夫，石崎秀晴(国立天文台)
- B 30 リアプノフ指数の計算精度依存性：中井 宏，木下 宙，吉田春夫(国立天文台)
- B 31 赤道面傾角の永年変化による衛星軌道面の永年摂動II：木下 宙(国立天文台)
- B 32 1993年の土星の衛星 Iapetus の食：相馬 充(国立天文台)
- B 33 土星衛星の軌道要素改良(1971年の衝)：畑中至純(国立天文台)



**第2日 10月14日(水) 午前9時より 会場B**

**(太陽系)**

- B 34 太陽の輪の消失と生成の11年周期：磯部瑛三, A. Satheesh-Kumar (国立天文台)
- B 35 発生初期の北極雲：赤羽徳英 (京大飛騨天文台), 岩崎恭輔 (京都学園大), 斎藤良一 (京大花山天文台), 鳴海泰典 (九州東海大工)
- B 36 観測から見た火星の前極雲一極雲と極冠との相違点並びにCO<sub>2</sub>分圧変動との関係について：海老沢嗣郎 (惑星物理研)
- B 37 フォボス近傍ダストに働く太陽放射圧の効果：石元裕史 (神戸大自然), 向井 正 (神戸大理)
- B 38 土星リングの成因：粒子表面摩擦の効果：大槻圭史 (東工大理)
- B 39 天王星の環の構造と羊飼衛星II：古在由秀 (国立天文台)
- B 40 レビー彗星(1990 c)の光度変化とダストマントルモデル：鈴木文二 (埼玉県立越ヶ谷高), 渡部潤一 (国立天文台), 中村彰正, 村岡建治 (星の広場)
- B 41 レビー彗星核のアイススケーターモデル：渡部潤一 (国立天文台)
- B 42 楕円断面から推定される楕円体の形状：佐藤 勲 (総研大, 国立天文台)
- B 43 フラクタルダストの熱放射特性におけるサイズ効果：岡本 創, 向井 正 (神戸大理), 小笹隆司 (宇宙研)
- B 44 氷粒子の低速度衝突付着からみたcoagulation粒子の構造：中村良介, 向井 正, 北田洋平 (神戸大理)

**(太陽)**

- B 45 Discovery of Time-Delayed Linkage of the 110-Year Modulations of Solar Rotation and Solar Cycle : Hirokazu Yoshimura, Maspul Aini Kambry, Masao Takata (東大理)
- B 46 サイクル20~22における太陽面活動領域の南北非対称：鈴木美好(三重県立津高), 久保田 諄(京大花山天文台)
- B 47 Rotation Rate of Active Nests on the Sun : Lidia van Driel-Gesztelyi, (東大理木曾)
- B 48 高層気象データに見られる太陽活動の影響：藤田恵理子(愛知教育大), 渡辺 慧(名大STE研), 大和田道雄(愛知教育大)
- B 49 太陽風加速のコロナ磁場構造と太陽活動依存性：小島正宜, 三澤浩昭, 山内洋平(名大STE研)
- B 50 皆既日食観測から求めた太陽半径の変化：久保良雄, 小山 薫, 奥村雅之, 加藤 剛(海上保安庁水路部)
- B 51 1991年7月11日皆既日食におけるコロナの温度構造：武田 秋, 黒河宏企, 北井礼三郎, 石浦清美(京大理)
- B 52 大フレアにおける黒点の高速運動：B. Anwar, M. Makita (京大理), L. Acton (LPARL), H. Hudson (Univ. Hawaii), S. Tsuneta (IAUT)
- B 53 High Resolution Observations of Disk Spicules. I. Evolution and Kinematics of Spicules : Y. Suematsu (BBSO, NSO, NAO), H. Wang, H. Zirin (BBSO)

**第2日 10月14日(水) 午後1時より 会場B**

- B 54 飛騨天文台の新フレア一監視望遠鏡による観測：黒河宏企, 中井善寛, 船越康宏, 北井礼三郎, 石浦清美, 木村剛一(京大理附属天文台)
- B 55 フレア望遠鏡による視線方向磁場・速度場の観測：一本 潔, 桜井 隆, 西野洋平, 篠田一也, 野口本和, 宮下正邦, 入江 誠, 熊谷收可, 田中伸幸, 今井英樹, 佐野一成(国立天文台)
- B 56 17GHzにおける静かな太陽の大局的構造：柴崎清登, 他電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山)
- B 57 活動域7220/7222の電波偏波変動：鏝目信三, 電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山・三鷹)
- B 58 活動領域NOAA 7220/7222におけるフレア活動：花岡庸一郎, 電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山), Yohkoh Team
- B 59 1992年6月28日に発生した大きなリムバーストの解析：中島 弘, 他電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山), 陽光チーム
- B 60 1992年6月28日のMクラスフレアの電波観測 Radio Image Observations of the M-class Flare on June 28, 1992 : 西尾正則, 電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山)
- B 61 多重インパルスフレア：崔 容碩(東大), 電波ヘリオグラフグループ(国立天文台)
- B 62 NOAA 7248における1992年8月12日の小規模フレア：鷹野敏明, 他電波ヘリオグラフグループ(国立天文台野辺山), YOHKOH Team
- B 63 「ようこう」の1年間とコロナの大規模構造：小川原嘉明(宇宙研), 「ようこう」チーム
- B 64 活性化した活動域から隣接したヘリカル磁場への加熱された質量の注入—「陽光」軟X線望遠鏡による観測—：内田 豊, J. Khan, A. McAllister, J. Klimchuk, P. Sturrock, 小川原嘉明, 松元亮治, 柴田一成(東大理, Stanford大, 宇宙研, 千葉大, 国立天文台)

- B 65 「ようこう」軟 X 線望遠鏡で観測される大規模コロナ構造とその時間変化：小塚幸央，渡辺 堯，小島正宜，大山政光（名大 STE 研），常田佐久（東大理），斎藤尚生（東北大理），亘 慎一（通総研平磯），ようこうグループ
- B 66 「ようこう」SXT イメージの解析にもとづくコロナホールチャンネルとセクター構造急変の解釈：斎藤尚生（東北大理），南 繁行（大阪市大工），小塚幸央（名大 STE 研），H. Hudson (Univ. Hawaii)，常田佐久（東大理），渡辺 堯（名大 STE 研）
- B 67 軟 X 線で観測されたコロナホールと高速太陽風：亘 慎一（通総研平磯），渡邊 堯，大山政光，小塚幸央（名大 STE 研）
- B 68 コロナホールの温度と高速太陽風：原 弘久，常田佐久，高橋哲男（東大理），小川原嘉明（宇宙研），L. Acton，M. ブルーナー，J. レメン（LPARL），H. ハドソン（ハワイ大）
- B 69 活動域 transient brightenings の発生率分布と活動領域コロナの加熱：清水敏文，常田佐久（東大理），L. W. Acton，J. R. Lemen（LPARL），H. S. Hudson（Hawaii 大），小川原嘉明（宇宙研），内田 豊（東大理）
- B 70 磁気リコネクション過程としての太陽フレア：常田佐久，原 弘久（東大理），L. W. Acton，J. R. Lemen（LPARL），柴田一成，増田 智（国立天文台），小川原嘉明（宇宙研），H. Hudson（ハワイ大），加藤雄治（愛知教大）
- B 71 1992 Aug. 17, 23: 58 UT のフレア 2 つの磁気ループ合体か？：高橋正昭（東海大理），坂井純一（富山大工），坂尾太郎，小杉健郎，常田佐久，渡辺鉄哉（国立天文台），H. Hudson（ハワイ大）

——ポスター・ディスカッション——

**第 3 日 10 月 15 日（木） 午前 9 時より 会場 B**

- B 72 浮上磁場とコロナ磁場の相互作用の 2 つの型：柴田一成（国立天文台），新田就亮（ロッキード），松元亮治（千葉大），田島俊樹（テキサス大），横山央明（国立天文台），及び，SXT チーム
- B 73 磁場構造とフレアの性質の相関：坂井純一（富山大），N. Nitta（LPARL），高橋正昭（東海大），坂尾太郎，小杉健郎，渡辺鉄哉（国立天文台），H. Hudson（U. Hawaii）
- B 74 1992 年 2 月 26 日に発生したフレアの H $\alpha$  像と「ようこう」軟 X 線望遠鏡像の比較：川上新吾（大阪市立科学館），黒河宏企，河合吾郎（京大理附属天文台），常田佐久（東大理センター）
- B 75 「ようこう」軟 X 線望遠鏡と H $\alpha$  線で見た活動領域 NOAA 7150 の初期進化：河合吾郎<sup>1</sup>，黒河宏企<sup>1</sup>，秋岡眞樹<sup>2</sup>，常田佐久<sup>3</sup>，清水敏文<sup>3</sup>，柴田一成<sup>4</sup>，L. Acton<sup>5</sup>，K. Strong<sup>5</sup>，N. Nitta<sup>5</sup>（<sup>1</sup>京大理，<sup>2</sup>通総研平磯，<sup>3</sup>東大理，<sup>4</sup>国立天文台，<sup>5</sup>ロッキード）
- B 76 活動領域 NOAA 7150 の軟エックス線，光学同時観測：秋岡眞樹，西川 淳（通総研平磯），常田佐久（東大理），河合吾郎（京大理），Zhang Hongqi, Ai Guoxiang（北京天文台），L. Acton（ロッキード），H. Hudson（ハワイ大）
- B 77 H $\alpha$  ダークフィラメント消失を伴う 1992 年 5 月 7 日の動的な X 線アーケード形成：ジョセフ・カーン<sup>1</sup>，内田豊<sup>1</sup>，アラン・マカリスタ<sup>1</sup>，ヒュー・ハドソン<sup>2</sup>，柴田一成<sup>3</sup>（<sup>1</sup>東大，<sup>2</sup>ハワイ大，<sup>3</sup>国立天文台）
- B 78 Prominence Eruption in NOAA7125 on April 6, 1992: A Comparative Study of DST H $\alpha$  Observation and Yohkoh X-Ray Observation: R. Kitai, G. Kawai, B. Anwar, Y. Funakoshi, Y. Nakai, H. Kurokawa（京大花山・飛驒天文台）and S. Tsuneta（東大理）
- B 79 巨大上昇プロミネンスと軟 X 線：宮崎英昭，山口朝三，一本 潔，宮下正邦，熊谷収可，野口本和，田中伸幸，平山 淳，佐野一成（国立天文台），常田佐久，L. Acton（ようこうチーム）
- B 80 1992 年 7 月 31 日の Prominence Eruption と Arcade Loop の Brightening：入交芳久，他電波ヘリオグラフグループ（国立天文台野辺山），陽光チーム
- B 81 プロミネンスの消滅時における磁場構造の変化：鹿野良平，常田佐久（東大理），小川原嘉明（宇宙研），L. W. Acton（LPARL）
- B 82 軟 X 線でみたフィラメント消失の統計的性質：大山政光，渡辺 堯，小島正宜，小塚幸央（名大 STE 研），平山 淳（国立天文台），常田佐久（東大理），亘 慎一（通総研平磯），陽光グループ
- B 83 1992 年 5 月 4 日の軟 X 線 CME：渡辺 堯，小島正宜，小塚幸央，大山政光（名大 STE 研），常田佐久（東大理），J. R. Lemen（Lockheed PARL），H. Hudson（UCSD），J. A. Joselyn（NOAA），J. A. Klimchuk（Stanford Univ.），YOHKOH Group
- B 84 フィラメント周辺構造の進化：丸橋克英（通総研），桜井 隆（国立天文台），黒河宏企（京大飛驒天文台），鹿野良平（東大理），J. A. Klimchuk（Stanford 大），R. D. Bentley（MSSL）
- B 85 HXT/SXT フレア観測の位置決め精度：小杉健郎，坂尾太郎，増田 智（国立天文台），印田美香，原 弘久（東大理），矢治健太郎（東大教養），Hugh Hudson（U. Hawaii），Jim Lemen（LPARL）

- B 86 「ようこう」HXT のスペクトル特性：印田美香，牧島一夫（東大理），矢治健太郎（東大教養），小杉健郎，坂尾太郎，増田 智（国立天文台），村上敏夫（宇宙研）
- B 87 ひとつの活動領域で発生した複数の太陽フレアの硬 X 線撮像観測（1）——AR6891 の場合——：増田 智，小杉健郎，桜井 隆（国立天文台），印田美香，原 弘久（東大理）
- B 88 ようこう HXT による太陽フレアの粒子加速現象の観測：坂尾太郎，小杉健郎，舘目信三，増田 智（国立天文台），印田美香，牧島一夫（東大理），R. C. Canfield (Univ. of Hawaii)，ほかようこうチーム
- B 89 遠方のコロナの構造変化を引き起こした活動域からの擾乱の伝播：A. H. McAllister<sup>1</sup>，Y. Uchida<sup>1</sup>，J. Lemen<sup>2</sup>，and J. I. Khan<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東大理，<sup>2</sup>LPARL)
- B 90 「ようこう」HXT による 1992 年 1 月 26 日のフレアの観測：金田英宏，印田美香，牧島一夫（東大理），矢治健太郎（東大教養），小杉健郎，坂尾太郎，増田 智（国立天文台），村上敏夫（宇宙研）
- B 91 1992 年 7 月 8 日の硬 X 線フレア——磁気ループ構造と硬 X 線源の分布：矢治健太郎（東大教養），印田美香，清水敏文（東大理），小杉健郎，坂尾太郎，増田 智（国立天文台）

**第 3 日 10 月 15 日（木）午後 1 時より 会場 B**

- B 92 SXV 輝線より求められた活動域の温度の特徴：渡邊鉄哉，日江井栄二郎（国立天文台），原 弘久，清水敏文（東大理），J. マリスカ (NRL)，R. ベントレー，A. フルードラ (MSSL)，B. プロマージュ D パイク (RAL)
- B 93 Multi-Temperature Analysis and Determination of Coronal Abundances of Sulphur, Calcium and Iron using the YOHKOH Bragg Crystal Spectrometer：A. Fludra<sup>1</sup>，R. D. Bentley<sup>1</sup>，J. L. Culhane<sup>1</sup>，G. A. Doschek<sup>2</sup>，E. Hiei<sup>3</sup>，K. J. H. Phillips<sup>4</sup>，A. Sterling<sup>5</sup>，T. Watanabe<sup>3</sup>
- B 94 Time Variation of Solar Flare Temperatures Determined from Yohkoh BCS Spectra：A. C. Sterling (CPI, ISAS)，G. A. Doschek and J. T. Mariska (NRL)，C. D. Pike (RAL, ISAS)，J. L. Culhane (MSSL)，E. Hiei and T. Watanabe (NAOJ)，and the Yohkoh BCS Team
- B 95 ようこう HXS が観測した線スペクトル：大木健一郎（国立天文台），吉森正人，森本幸司，須賀一治（立教大理）
- B 96 γ 線フレアにおける高エネルギー陽子のエネルギースペクトル：須賀一治，吉森正人，森本幸司，佐藤 淳，平岡卓也（立教大理），大木健一郎（国立天文台）
- B 97 Electron Bremsstrahlung and Nuclear Gamma-Ray Components in Solar Flares：M. Yoshimori，K. Suga，K. Morimoto，J. Satoh，T. Hiraoka（立教大理）and K. Ohki（国立天文台）
- B 98 Positron Annihilation Line at 511 keV Observed from 1991 Nov. 15 Flare：K. Kawabata（名大理），M. Yoshimori，K. Suga，K. Morimoto，J. Sato，T. Hiraoka（立教大理）and K. Ohki（国立天文台）
- B 99 MHD 相似法則と境界層：桜井健郎，馬 勘夫（京大工）
- B 100 Similarity Rule in a MHD Rotating Stratified Flow：Jiefu Ma，Takeo Sakurai (Dept. of Aeron. Engg., Kyoto Univ.)
- B 101 太陽磁場の source surface model の改良：桜井 隆（国立天文台）
- B 102 3 次元 MHD 解析による太陽圏外圏の研究：野澤 恵，鷲見治一（名大 STE 研）
- B 103 浮上磁場リコネクションにより生成される two-sided ループに沿ったジェット：横山央明，柴田一成（国立天文台），松元亮治（千葉大教養），及び SXT チーム
- B 104 磁束管内における対流不安定の時間発展について（その 2）：竹内彰継（米子高専）
- B 105 Numerical Simulation of Two Current Loops Coalescence：Shinji Koide and Jun-ichi Sakai（富山大理）
- B 106 Prompt High-energy Particle Acceleration during Two Current Loops Collision：Jie Zhao，Bidzina Chargeishvili，and Jun-ichi Sakai（富山大理）
- B 107 Solar Prominence Formation Due to Current Loops Coalescence：Bidzina Chargeishvili<sup>1</sup> and Jun-ichi Sakai（富山大理）(<sup>1</sup>A bastumani Astrophysical Observatory of Georgian Academy of Sciences.)
- B 108 <sup>3</sup>He 過剰フレアと電流不安定性：樋田美栄子，張 天喜，大澤幸治（名大プラズマ科学センター）

## 会場 C (名大会館シンポジオン)

第1日 10月13日(火) 午前10時30分より 会場C

(恒星)

- C 1 長周期変光星の測光モニター観測：西城恵一(国立科学博物館), 佐藤英男(東大理センター)
- C 2 脈動星流体力学模型が示す不規則振動の次元解析：相川利樹(東北学院大)
- C 3 一層模型における対流の効果：石田俊人(西はりま天文台)
- C 4 Post-AGB星の脈動周期の数値計算：高野 亮, 田村真一, 竹内 峯(東北大)
- C 5 Some Observational Appearances of  $m=1$  Density Waves in Be-star Disks：岡崎敦男(北海学園大)
- C 6 Be星赤道円盤の構造：嶋田理博, 平田龍幸, 嶺重 慎(京大理)
- C 7 Be星  $\Phi$  Per の分光解析 II.：鈴木雅一(金沢工大), 門 正博, 小暮智一(京大理), M. SINGH (Uttar Pradesh State Obs., India)
- C 8 Multiband Polarimetry of Be stars III: Model Fitting for Bright Be Stars : C. Kunjaya<sup>1,2</sup> and R. Hirata<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Fac. of Sci., Kyoto University <sup>2</sup>Dept. of Astronomy, ITB)
- C 9 矮新星 SW UMa における超準周期振動の発見：加藤太一, 平田龍幸, 嶺重 慎(京大理)
- C 10 食連星 RZ Cas の皆既食解：鳴沢真也, 小川 慎, 中村泰久(福島大)
- C 11 共生星 AX Persei の偏光観測：関根義之, 平田龍幸, 加藤太一(京大理)

第1日 10月13日(火) 午後1時より 会場C

- C 12 Vega,  $\gamma$  Gem, Sirius の磁場の検出の試み：比田井昌英, 寿岳 潤(東海大)
- C 13 ベガの CNO 組成について：竹田洋一(東大理)
- C 14 シリコン同位体組成比：辻 隆(東大理)
- C 15 惑星状星雲 NGC7027 の HCO<sup>+</sup> トーラス：山村一誠(東大理), 出口修至(国立天文台野辺山)
- C 16 KNIFE による晩期型星 H<sub>2</sub>O メーザー観測：高羽 浩, 岩田隆浩(CRL), 三好 真, 亀野誠二(東大理), 松本欣也, 片桐征治(電通大), 浮田信治ほか(国立天文台野辺山), VLBI グループ
- C 17 新吸収係数を用いた新星の光度曲線：加藤万里子(慶応大), 蜂巣 泉(東大)
- C 18 SN1987A の ejecta 中における物質混合の再計算：蜂巣 泉(東大), 松田卓也(神戸大), 野本憲一, 茂山俊和(東大理)
- C 19 連星系の超新星爆発：山田良透(京大理)
- C 20 新星爆発における放射性元素<sup>22</sup>Na, <sup>26</sup>Al の合成：和南城伸也<sup>1</sup>, 橋本正章<sup>2</sup>, 野本憲一<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東大理, <sup>2</sup>九大)
- C 21 SN1987A の<sup>57</sup>Co 核  $\gamma$ 線とパルサー：熊谷紫麻見, 野本憲一(東大理)
- C 22 超新星 1987A のリングと砂時計：茂山俊和(東大理)
- C 23 リコンビネーション過程によるニュートリノエネルギー損失：小浜昭彦<sup>1</sup>, 武藤晴彦<sup>1</sup>, 伊藤直紀<sup>1</sup>, 神山泰治<sup>2</sup> (<sup>1</sup>上智大理工, <sup>2</sup>富士総研)
- C 24 グリッチに伴う熱とその緩和時間への影響：柴崎徳明, 望月優子(立教大)
- C 25 Z-source の Normal branch におけるスペクトル変化のモデル：本間文雄, 嶺重 慎(京大理)

休 憩

- C 26 準周期振動からカオスへ：GS 1124-68 の時間変動：堂谷忠靖, 満田和久(宇宙研), 他「ぎんが」チーム
- C 27 「ぎんが」による GX 17+2 の観測：山本泰志, 堂谷忠靖, 満田和久, 吉田健二(宇宙研)
- C 28 GX3+1 (4U1744-26) からの X線バースト：浅井和美, 長瀬文昭, 堂谷忠靖(宇宙研), 他「ぎんが」チーム
- C 29 GX13+1 からの X線バーストの発見：松葉栄治, 堂谷忠靖, 満田和久(宇宙研), W. H. G. Lewin (MIT), 他「ぎんが」チーム
- C 30  $\gamma$ 線バーストの X線/ $\gamma$ 線相関：吉田篤正(理研), 村上敏夫, 小賀坂康志(宇宙研), 西村 純(神奈川大), E. E. Fenimore (ロス・アラモス国立研)
- C 31 「ようこう」衛星による  $\gamma$ 線バーストの観測：森本幸司(立教大), 山上隆正(宇宙研), 西村 純, 柿木 清(神奈川大), 吉森正人(立教大), 村上敏夫, 小賀坂康志, 山中正行(宇宙研), 吉田篤正(理研), 近藤一郎(芝浦工大)
- C 32 「ようこう」衛星による  $\gamma$ 線バーストのスペクトル：村上敏夫, 森本幸司, 山上隆正, 小賀坂康志, 山中正行(宇宙研), 吉森正人(立教大), 吉田篤正(理研), 西村 純(神奈川大)
- C 33 強磁場激変星の硬 X線観測：石田 学(宇宙研), 牧島一夫(東大理), J. P. Osborne, M. G. Watson (Leicester 大)
- C 34 ブラックホール候補天体からの X線の激しい時間変動：根来 均, 宮本重徳(阪大理)

- C 35 星風モデルにおける Cyg X-3 の X 線スペクトル：中村 浩 (埼玉大, 理研), 寺澤信雄, 松岡 勝 (理研)
- C 36 AqlX-1 の不安定なフレアー周期：北本俊二, 常深 博, 宮本重徳 (阪大理), Diane Roussel-Dupre (LANL)
- C 37 「ぎんが」による超新星残骸方向のパルサーの探索：青木貴史, 堂谷忠靖, 満田和久, 長瀬文昭 (宇宙研)
- C 38 磁変星の振動におけるパリティ選択則：高田将郎 (東大理)
- C 39 X 線パルサー Vela X-1 の HST/Ginga による共同観測—II. HST による紫外域吸収線の脈動の検出：長瀬文昭 (ISAS), B. Boroson, D. McCray (JILA), T. Kallman (GSFC)
- C 40 X 線パルサー CenX-3 についてのフラクタル解析(続)：兼武令子 (東北大理), 竹島敏明 (理研), 牧島一夫 (東大理), 竹内 峯 (東北大理)
- C 41 X 線パルサーのサイクロトロン線：西村 治 (東大教養)
- C 42 連星系 X 線パルサーの降着プラズマの構造：X 線パルサーの時間変動と MHD 乱流：星野真弘, 竹島敏明 (理研)

**第2日 10月14日(水) 午前9時より 会場C**

- C 43 2 次の WKB 近似による太陽内部構造診断 II：西澤 隆, 柴橋博資 (東大理)
- C 44 回転星の固有振動と重力波放出による不安定性：小嵐康史 (都立大理)
- C 45 パルサー磁場進化のシミュレーションにおける初期速度依存性：匹田 篤, 伊藤直紀 (上智大理工)
- C 46 相対論的円盤内線部での corrugation 波の励起：加藤正二 (京大理)
- C 47 伴星による潮汐効果と矮新星の爆発現象：市川 晋, 廣瀬雅人, 尾崎洋二 (東大理)
- C 48 モンテカルロ法による Ia 型超新星の光度曲線：山岡 均 (九大教養), 熊谷紫麻見, 茂山俊和, 野本憲一 (東大理)
- C 49 定衝撃波降着流に生ずる不安定性の物理的機構：中山薫二 (京大工)
- C 50 波動パターンを持つ降着円盤のスペクトル：山田竜也, 福江 純 (大阪教育大)
- C 51 脈動円盤の魔法周期：福江 純 (大阪教育大)
- C 52 Schwarzschild black hole の周りの自己照射降着円盤の構造とスペクトル：三分一清隆, 福江 純, 山田竜也 (大阪教育大)
- C 53 X 線パルサー Scutum X-1 のパルス周期変化：山内茂雄, 小山勝二 (京大理), 「ぎんが」チーム
- C 54 X 線照射円盤の安定性について：嶺重 慎 (京大理), 楠瀬正昭 (コペルニクス天文センター)
- C 55 ブラックホール周りの磁気降着円盤：工藤哲洋 (東北大理)
- C 56 ブラックホール周りの降着円盤中を伝わる速い磁気音波の増幅：須田綾子, 工藤哲洋, 内田俊郎, 鍋木 修 (東大理)
- C 57 ブラックホールへの高温ディスクの降着について：矢吹富美子, 高原文郎 (都立大理)
- C 58 ブラックホールへの重力崩壊に伴うディスクの形成：鈴木知治, 野本憲一 (東大理)
- C 59 自転を持つ連星中性子星の合体：柴田 大 (京大理), 中村卓史 (京大基研), 大原謙一 (KEK)
- C 60 銀河合体に伴う連星 BH からの重力波：田越秀行, 柴田 大 (京大理), 中村卓史 (京大基研)
- C 61 Schwarzschild 時空からの重力波：田中貴浩, 柴田 大, 佐々木 節, 田越秀行 (京大理), 中村卓史 (京大基研)
- C 62 自転重力崩壊と球対称重力崩壊の比較：山田章一, 佐藤勝彦 (東大理)
- C 63 ブラックホールの熱力学的な安定性：岡本 功 (国立天文台水沢), J. Katz (ヘブライ大), 鍋木 修 (東大理)

**第2日 10月14日(水) 午後1時より 会場C**

- C 64 2 カー・ブラックホール合体の熱力学的議論：堀内真司 (東北大理), 岡本 功 (国立天文台水沢)
- C 65 ブラックホールの安定性と熱力学ポテンシャルの二次微分の関係：鍋木 修 (東北大理), 岡本 功 (国立天文台水沢)
- C 66 ブラックホール磁気圏の slow evolution：内田俊郎 (東北大理)
- C 67 相対論的遠心力風を持った磁気圏の構造：柴田晋平 (山形大理), Leon Mestel (University of Sussex)
- C 68 Asymptotic Structure of Magnetically Driven MHD Wind：新田伸也 (名大理)
- C 69 Asymptotic Collimation of Magnetized Relativistic Winds：冨松 彰 (名大理)

**(我々の銀河系)**

- C 70 球状星団の主成分解析：伊藤信成, 岡村定矩 (東大理)
- C 71 球状星団の光度関数について：下田真弘 (東京学芸大)
- C 72 UK Schmitt による低銀緯 Starcounts：山縣朋彦 (文部省, ROE)
- C 73 銀河系の渦度ベクトルは銀河面に垂直か？ III—Galactic Warp の Kinematics その 2—：宮本昌典, 相馬充, 吉澤正則 (国立天文台)

- C 74 PSR 1509-58 の硬 X 線/ガンマ線観測：田村忠久，釜江常好，郡司修一，関本裕太郎，高橋忠幸，田中光明，平山昌治，宮崎 聡，山崎典子（東大理），能町正治（高エ研），山上隆正（宇宙研），村上浩之（立教大理），J. Braga, A. Neri (INPE)

(銀河・銀河団)

- C 75 QSO HS 1946+7658 の分光観測：定金晃<sup>3</sup>，比田井昌英<sup>2</sup>，吉田道利<sup>3</sup>，小杉城治<sup>3</sup>，大谷 浩<sup>3</sup>（<sup>1</sup>大阪教育大，<sup>2</sup>東海大文明研，<sup>3</sup>京大理）
- C 76 Blazars の電波と X 線の同時期観測 (III)：岡保利佳子（埼玉大，理研），田原博人，加藤龍司（宇都宮大教育），井上 允（国立天文台野辺山），河合誠之（理研），W. Brinkmann, H. H. Fink (M. P. E.)
- C 77 X 線銀河団における銀河，銀河間ガス，ダークマターの相対量：福本淳司（東大理），池内 了（国立天文台）
- C 78 銀河団における銀河の質量と速度分散の関係：船渡陽子，牧野淳一郎，戎崎俊一（東大教養）
- C 79 銀河・銀河団の速度関数：嶋作一大（東大理）
- C 80 銀河団衝突のダイナミクス：中村文隆（茨城大理），服部 誠（理研），吉田龍生（茨城大理）
- C 81 Testing Unified Models of Active Galaxies Through Infrared Spectroscopy：Philip Blanco (UCSD)，Martin Ward (Oxford)，Andrew Wilson (STSI)，Minoru Nishida

—ポスター・ディスカッション—

第3日 10月15日(木) 午前9時より 会場C

- C 82 「ぎんが」による NGC 2110 の X 線観測：林 一蔵，小山勝二，山内茂雄，上野史郎（京大理），粟木久光 (GSFC/NASA)
- C 83 「ぎんが」衛星によって観測された NGC3227 の X 線スペクトルの構造：Ian BOND，松岡 勝，山内 誠（理研）
- C 84 PtSi 赤外カメラによる銀河の撮像観測 2：太田耕司（京大理），上野宗孝（東大教養），小平桂一（国立天文台）
- C 85 ISO による原始銀河探索の可能性について：佐藤康則<sup>1</sup>，川良公明<sup>2</sup>，若松謙一<sup>3</sup>，奥田治之<sup>4</sup>，唐牛 宏<sup>2</sup>，岡村定矩<sup>5</sup>，塩谷泰広<sup>1</sup>，谷口義明<sup>1</sup>（<sup>1</sup>東北大理，<sup>2</sup>国立天文台，<sup>3</sup>岐阜大教養，<sup>4</sup>宇宙研，<sup>5</sup>東大理）
- C 86 IRAS CPC Observations of Galaxies：Wim van Driel（東大理木曾）
- C 87 CO J=1-0 and 3-2 Observations of IRAS F10214+4724：M. TSUBOI and N. NAKAI（国立天文台野辺山）
- C 88 かみのけ座銀河団の表面測光：土居 守，岡村定矩，嶋作一大，柏川伸成，安田直樹（東大理），福来正孝（京大基研），関口真木（国立天文台），樽沢賢一（東大理木曾），木曾観測所
- C 89 A BASIC STEP TOWARD THE CO-LINE TULLY-FISHER RELATION：Franz SCHÖNIGER and Yoshiaki SOFUE (Institute of Astronomy, University of Tokyo)
- C 90 Magellanic stream について：沢 武文（愛知教育大），藤本光昭（名大理）
- C 91 局部銀河群の進化とマゼラン雲の軌道：上村左知子，土佐 誠（東北大理）
- C 92 銀河間ガスの動圧によるリーディング渦状腕の形成：土佐 誠（東北大理）
- C 93 銀河の H $\alpha$  強度の半径分布：棒状渦巻銀河：西山広太（総研大），中井直正（国立天文台野辺山）
- C 94 Molecular Superclouds in M51：瀧崎智佳<sup>1</sup>，谷口義明<sup>1</sup>，川辺良平<sup>2</sup>（<sup>1</sup>東北大理，<sup>2</sup>国立天文台野辺山）
- C 95 NGC4258 の $\pm 1000$  km/s の H<sub>2</sub>O メーザー：中井直正，井上 允（国立天文台野辺山），三好 真（東大理）
- C 96 NGC4258 水メーザー高速度成分のラマン散乱モデル：出口修至（国立天文台野辺山）
- C 97 系外銀河 NGC253 での SO 分子の検出：高野秀路（分子研），中井直正<sup>1</sup>，川口建太郎（国立天文台野辺山）
- C 98 銀河中心領域におけるガスの分布・運動とスターバーストとの関連：石附澄夫<sup>1,2</sup>，川辺良平<sup>1</sup>，石黒正人<sup>1</sup>（国立天文台野辺山<sup>1</sup>，東大理<sup>2</sup>）
- C 99 NGC5195 のポストスターバースト銀河核：山田 亨，富田晃彦（京大理）
- C 100 セイファート銀河 NGC3310 の分子ガス：菊本隆博（東北大理），鈴木美都（総研大，国立天文台野辺山），富坂幸治（新潟大教育），谷口義明（東北大理）
- C 101 OAO-SNG による Ring Galaxy NGC3646 の速度場の観測：吉田道利<sup>\*</sup>，佐々木敏由紀<sup>1</sup>，小杉城治<sup>\*</sup>，青木賢太郎<sup>\*</sup>，大谷 浩<sup>\*</sup>，小矢野 久<sup>1</sup>，清水康広<sup>1</sup>，佐々木 実<sup>\*</sup>（<sup>\*</sup>京大理，<sup>1</sup>国立天文台，<sup>\*</sup>下関市立大）

第3日 10月15日(木) 午後1時より 会場C

- C 102 天の川に隠された銀河の探査：斎藤 衛（京大理）
- C 103 銀河の形成初期における力学的・化学的進化：辻本拓司，野本憲一，茂山俊和（東大理）
- C 104 矮小不規則銀河の星生成のメカニズムの研究：富田晃彦，斎藤 衛，太田耕司，山田 亨（京大理）
- C 105 銀河円盤の進化：重元素勾配と回転曲線：塩谷泰広，土佐 誠（東北大理）

- C 106 Evolutionary Method of Population Synthesis for Bulge-Disc Systems : 有本信雄 (東大理センター), P. Jablonka (パリ天文台ムードン)
- C 107 共生降着円盤モデルの不安定性 : 中村香織, 尾崎洋二, 廣瀬雅人, 市川 晋 (東大理)
- C 108 ブラックホールへの降着磁気流体中での衝撃波形成 : 横沢正芳 (茨大理)
- C 109 活動銀河核形成の統一的描像 : 谷口義明 (東北大理)
- C 110 銀河中心核の間欠的活動性. II. : 福長正考 (東北大理)
- C 111 自己重力ガスを含む銀河円盤の安定性 : 野口正史 (東北大理/JILA), I. Shlosman (ケンタッキー大)
- C 112 AGN 降着円盤の鉛直構造 : 志村俊也, 高原文郎 (都立大理)
- C 113 活動銀河中心のブラックホールの質量 : 林田 清, 宮本重徳, 北本俊二 (阪大理) 他 ぎんがチーム
- C 114 Violent Relaxation の最終状態について : 野桜俊也 (北大理)

## 休 憩

- C 115 Bar 消滅シナリオについて : 西田実継 (神戸女子大), 若松謙一 (岐阜大)
- C 116 非ビリアル平衡の重力多体系における二体緩和 : 山城稔暢 (京大理)
- C 117 リアプノフ指数による自己重力多体系の解析 : 土屋俊夫 (京大理), 郷田直輝 (阪大理)
- C 118 カオスと予言可能性 : 稲垣省吾 (京大理), 小西哲郎 (名大理)
- C 119 変分法による Fokker-Planck 方程式の数値積分 : 高橋広治 (京大理)
- C 120 軌道追跡法による球対称恒星系の進化 : 穂積俊輔 (滋賀大教育), 藤原隆男 (京都市芸大)
- C 121 超高速多体問題専用計算機による星団・銀河・銀河団の進化の研究-1 : 杉本大一郎, 戎崎俊一, 井田 茂, 牧野淳一郎, 泰地真弘人 (東大教養)
- C 122 剛体回転する球の dissipationless collapse : 牧野淳一郎, 戎崎俊一 (東大教養)
- C 123 HARP : Hermite scheme による重力多体問題専用計算機 : 泰地真弘人, 小久保英一郎, 牧野淳一郎 (東大教養)
- C 124 tree code の individual time-step 化について : 伊藤 誠 (京大情報処理教育センター), 須藤 靖 (京大基研)
- C 125 自己重力不安定性による球状星団の形成 : 宇佐美昌俊, 花輪知幸, 藤本光昭 (名大理)
- C 126 Centaurus A の硬 X 線/ガンマ線観測 : 宮崎 聡, 釜江常好, 関本裕太郎, 高橋忠幸, 田中光明, 田村忠久, 平山昌治, 山岡典子 (東大理), 郡司修一 (山形大理), 能町正治 (高エ研), 井上 一, 山上隆正 (宇宙研), 村上浩之 (立教大理), João Braga, Angelo Neri (INPE)

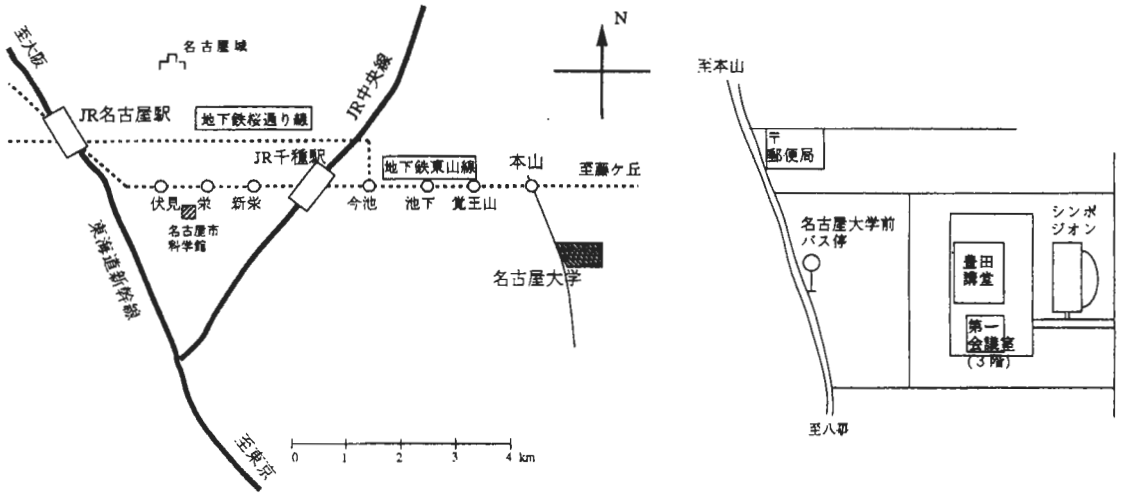
## ポスターセッション

- P 1 HEI 10830 で見られるダークポイントと軟 X 線ブライต์ポイントについて : 當村一朗 (大阪府立高専), 一本 潔, 熊谷收可 (国立天文台), K. L. Harvey (KPNO), K. Strong (Lockheed), ようこう SXT チーム
- P 2 自己重力トロイドの構造と子午面環境 : 江里口良治 (東大教養), Müller (MPA)
- P 3 活動領域の成長機構に関する一考察-ようこう資料による : 高橋忠利, 斎藤尚生, 常田佐久, 小塚幸央, 渡辺 堯 (東北大理, 東大理, 名大 STE 研)
- P 4 GRAPHIC 表示による外部 CORONA 11 年変化の統一的解釈 : 沼沢茂美, 小塚幸央, 大越 治, 斎藤尚生 (JPL, 名大 STE 研, 府中三中, 東北大理)
- P 5 1991 年 1 ~ 3 月の大黒点群と三双極子 MODEL : 入江 誠, 斎藤尚生, 山口喜助 (国立天文台, 東北大理, 元 国立天文台)
- P 6 46.5 MHz における銀河背景放射のマッピング : 前田耕一郎 (兵庫医大), 前田佐和子 (京都造芸大), 冨田良雄 (京大理)
- P 7 CSS 電波源のミリ波帯連続スペクトル : 亀野誠二 (東大理), 井上 允 (国立天文台野辺山), 高羽 浩 (通総研), 他 KNIFE チーム
- P 8 磁場に浸ったブラックホール周りの荷電粒子の運動 : 石塚俊久, 中村芳昭 (茨城大理)
- P 9 楕円銀河の等輝度線の解析 : 足利直美, 山田嘉彦, 安田大輔, 佐藤毅彦, 川端 潔 (東理大理)
- P 10 エッジオン銀河 NGC891, 4565 の CO 観測 : 祖父江義明 (東大理センター), 中井直正 (国立天文台野辺山)
- P 11 How did primeval starbursts influence galactic morphology? : 和田桂一, 羽部朝男 (北大理)
- P 12 A flare in the light curve of 3C345 : 尾久土正己 (西はりま天文台), L. O. Takalo (Tuorla Observatory, Finland)
- P 13 IR Cluster in Star Formation Cloud-II. Dark Clouds : S. S. Hayashi, T. Yamashita, M. Ueno\*, and PtSi Camera Team (国立天文台, 東大理)
- P 14 Cygnus X 領域に於ける星間雲の存在形態 : 土井靖生<sup>1,2</sup>, 中川貴雄<sup>1</sup>, 山下由香利<sup>1,2</sup>, 奥田治之<sup>1</sup>, 芝井 広<sup>1</sup>, 西村徹郎<sup>3</sup>, F. J. Low<sup>3</sup> (<sup>1</sup>宇宙研, <sup>2</sup>東大理, <sup>3</sup>アリゾナ大)

- P 15 南天銀河面[CII]サーベイ観測：中川貴雄<sup>1</sup>，土井靖生<sup>1,2</sup>，望月賢治<sup>1,2</sup>，山下由香利<sup>1,2</sup>，奥田治之<sup>1</sup>，油井正生<sup>1,2</sup>，芝井 広<sup>1</sup>，西村徹郎<sup>3</sup>，F. J. Low<sup>3</sup> (<sup>1</sup>宇宙研，<sup>2</sup>東大理，<sup>3</sup>アリゾナ大)
- P 16 近赤外でみた HL Tau の1秒角以下の構造 (Sub-arcsec Structure of HL Tau in the Near-Infrared)：小林尚人，長田哲也 (京大理)，K. -W. Hodapp (UH, IfA)
- P 17 KSC シュミットカメラ用画像データベースの開発—フィルムスキャナー装置：近藤俊夫，高岸邦夫，廿日出勇 (宮崎大工)，榮楽正光 (宇宙研)
- P 18 反射星雲 R Mon/NGC2261 の偏光観測：松村雅文 (香川大教育)，関 宗蔵 (東北大教養)
- P 19 高銀緯星間雲からの遠赤外 [CII] 線放射：松原英雄，松浦周二，田中昌宏，川田光伸，松本敏雄 (名大理)，P. Maukopf, J. Bock, V. Christov, A. Lange (カリフォルニア大バークレー)
- P 20 幾何学的に厚い降着円盤の不安定性：荒井賢三 (熊大理)
- P 21 自己重力円盤の2次元平衡形状モデル：橋本正章 (九大教養)，江里口良治 (東大教養)，E. Müller (マックスプランク研)
- P 22 大質量星の2次元平衡形状の現実的モデル：羽田 亨，橋本正章 (九大教養)，江里口良治 (東大教養)，E. Müller (Max-Planck Institut)，斉尾英行 (東北大理)，山岡 均 (九大教養)
- P 23 標準模型における非線形減衰項の効果 (その2)：中原卓治，田中靖夫 (茨大教育)
- P 24 AC Her の脈動の特性について II：田中靖夫，鍛本敬継 (茨大教育)，竹内 峯 (東北大理)
- P 25 HU Aur の多色光度曲線解析：中村泰久，鳴沢真也 (福島大教育)
- P 26 堂平における炭素星の光電測光観測：佐藤英男，\*<sup>1</sup>西成恵一，中田好一，辻 隆 (東大理 \*<sup>1</sup>国立科学博物館)
- P 27 小型電波望遠鏡観測制御システム“ASTROS”：岡 朋治 (東大理)，半田利弘，長谷川哲夫 (東大理センター)，林 正彦，阪本成一 (東大理)
- P 28 230GHz 帯 tunerless SIS 受信機の開発：阪本成一<sup>1</sup>，岩下浩幸<sup>2</sup>，M. G. McCulloch<sup>2</sup>，野口 卓<sup>2</sup>，坂本 和<sup>1,2</sup>，川辺良平<sup>2</sup>，長谷川哲夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東大理，<sup>2</sup>国立天文台野辺山)
- P 29 1992年ペルセウス座流星群の異常な出現について：鈴木和博 (三谷水高)
- P 30 電波源基準座標系と可視光恒星基準座標系の結合：中嶋浩一 (一橋大経済)
- P 31 「あじさい」の明るさの測定 そのII：皿井宏仁 (宇宙開発事業団)，榮楽正光 (宇宙研)，富田弘一郎，水谷敦司，石堂秋男 (エイ・イー・エス)
- P 32 カイロン型天体の軌道進化：中村 士 (国立天文台)，吉川 真 (通総研鹿島)
- P 33 日本の夜空の明るさの分布：香西洋樹，磯部瑠三，佐々木五郎 (国立天文台)
- P 34 大学生の科学意識調査：宮内良子 (国立天文台)，加藤万里子，長沖暁子，福山欣司，高山 博，岸 由二 (慶応大)
- P 35 美星天文台計画：綾仁一哉 (美星町役場)，大島 修 (水島工高)，清水 実 (駿台高)，田辺健茲 (岡山理大)，法月惣次郎 (法月技研)，胡寧生 (南京天文儀器廠)
- P 36 蛇座反射星雲の近赤外偏光撮像：寒川尚人 (京大理)，田村元秀 (JPL)，上野宗孝 (東大教養)，I. Gatley, K. M. Merrill (NOAO)



## 1992 年秋季年会会場案内図



JR 名古屋駅下車  
 地下鉄東山線藤ヶ丘方面乗り換え  
 本山駅下車  
 進行方向むかって右(南)へ  
 徒歩 15 分、バス 5 分名大前下車  
 左手山の上に豊田講堂ほか

A 会場：豊田講堂  
 B 会場：第一会議室  
 C 会場：シンポジオン  
 懇親会会場：シンポジオン